



韓国女性山岳会前会長の

ペ・キョンミさん

8000m 峰 14 座競争から、クライミングワールドカップまで、何に着けても元気なニュースの多い韓国の女性たちを、組織の立場でサポートし続けて来られたペ・キョンミさんに、日帰り来日公演の合間を縫ってお話を伺いました。（インタビューと文：張晶子）

◆子ども時代は、どんなお子さんでしたか？

—音楽と本と映画が好きな子どもでした。父が聞かせてくれた米軍のラジオ放送で音楽に興味を持ち、父の蔵書の建築デザインの本を読むのが好きでした。

その父が、5人兄弟の末っ子の私を毎日のように往復 20～30 分の裏山に連れて行ってくれたのです。兄弟は姉と私の間に 3 人の兄がいたので、外で遊ぶときはいつも男の子たちと一緒に凧揚げやスケートなどしていました。

◆山との出会いは？

—大学に入ったときです。キャンパスが山に囲まれていたこともあり、山岳部の人たちが荷物を背負って出掛けて行く姿を見て、入部を決めました。他にも、書芸部に入りました。小さいころから絵を描くのも好きでしたし、他のことを忘れて夢中になれて、集中力を必要とするという点では共通するものがあります。

◆山岳部はどんなところでしたか？そこではどんな経験がありましたか？

—週 2～3 回のトレーニングは、ランニングや筋肉トレーニング、スイミングといったものでした。毎月 2 回は週末を使って、岩登りや縦走などに行き、春と秋には 1 週間程度の合宿があり、冬合宿は 10 日以上でした。

韓国では大学を横断した組織がクライミングスクールを主催していて、キャンプやトレーニングが出来るのですが、3 年生になると、私は社会人の多いコリアン・アルパイ

ン・スクールに入りました。

海外遠征などの経験ある有名クライマーがコーチで、春と秋の8週間でしたが、技術と知識、歴史など学ぶ事が出来ました。

大学の思い出と言えば、夏のソラク山合宿で、滝の上のトラバースで滑落して、フィックスロープにぶら下がり、滝の中で何回もバウンドして腰を打ち、ずぶ濡れになったことですね。20kg以上背負っていましたし、落ちたときは色々なことがフラッシュバックして、「人は死ぬときこんなふうにするのか」と思いました。苦い思い出です。

◆女性山岳会の会長をされていましたが、どうして引き受けられたのですか？

—24 オマッキンレー女性隊に参加しました。23才の時、エベレストローツェ隊にトレーニングキャンプ参加しましたが、女性は各山岳会に1人か2人しかいなくて、ヒマラヤなどでもメディカルサポートにまわることが多く、アタック隊に入れないと感じていました。女性隊ではリラックスできるし、コミュニケーションも良く、活動しやすいです。また、若手を育て、エクスペジションの夢を共に叶えることも出来ます。

2006年から女性山岳会の会長を4年間やりました。その間、女性の7サミツ実現や、女子チームのビッグウォールクライミング、ワールドカップなどのために活動し、資金は30倍になりました。パタゴニア・トランゴタワーやヨセミテ・ゾディアックに登攀する元気な女子チームもありますし、最年少会員はクライミングワールドカップチャンピオンにもなったキム・ジャインです。彼女の転戦費用のためのスポンサー探しも会で支援しています。会員は、オンラインとオフラインで500名くらいです。

◆ご主人もクライマーで、お子さんもいらっしゃるようですが、ご家族でも山に行かれますか？

—夫は、他の大学のクラブにいた同い年のクライマーでした。81・82年の全国クライミング大会のチャンピオンで、すでにコリアン・クライミングスクールのコーチでした。とても親切なコーチだったんです（笑）。

30代はよく一緒に登っていましたが、今はケース・バイ・ケースです。21才になる息子は中学卒業のプレゼントに父親とキリマンジャロに登り、去年の夏はモンブランに登りました。よくインスボンなどにも登っています。娘の方は山より写真が好きようです。

◆山を通して子どもたちに伝えたいことは何ですか？

—山の経験で一番大切だと思うのは、諦めないこと、何でもトライするという事です。
今の若者はトライしない人が多いように感じます。自分のことしか考えない人も多いのではないのでしょうか。忍耐強く、他人のことも考えて、チームで行動することは大切です。自然を思い、エコ生活の大切さなど、山を歩きながらよく考えます。

◆韓国(大韓)の山岳環境の現状を聞かせてください。

—多くの方が山岳環境保護を意識しています。私たちは、女性だけで 2002 年にクリーンアップキャンペーンで、インスボンの岩場のタバコの吸殻を回収しました。

今年 1 月にはハンラ山で、約 70 名の学生が残置トイレトペーパーを回収しました。また、韓国山岳会 (Corean Alpine Club) 会長のハンさんは 8000m14 座登頂を果たした後、8000m 峰のクリーンエクスペディションをやっています。

多くの方が、どうしたら山岳環境を保護できるのだろうかと考えています。

◆大韓山岳聯盟の海外担当理事として、組織の仕事に 50%、家庭に 25%、山に 25%の力配分になっていると笑って話して下さったキョンミ (京美) さん。韓国初の女性エベレスト隊が聯盟により各地方の代表から組織され、その後それぞれリーダーになっているのは韓国の組織力ならではの成果かと感心させられました。